

協 纂 日 報 藝

日本篆刻家協会 ニュースレター 2025.11.1 第19号
発行 日本篆刻家協会 会長 尾崎蒼石 理事長 真鍋井蛙

日本篆刻家協会 563-0032 大阪府池田市石橋2-2-10-203 編集 常務理事 北田成磊

理事長挨拶

理事長 真鍋井蛙

令和七年も残すところわずかとなりました。会員の皆様には日頃より本協会の活動にご理解とご協力賜り、心より御礼申し上げます。
本年は社会の変化のなかにあっても篆刻の美と創設者梅舒適先生の精神を次代へとつなぐべく展覧会や中央研究会、地方支部との交流など幅広い活動を進めてまいりました。各種展覧会におきましても入賞、入選の人々が増加しております。これも会員の皆様の熱意と創意によるものであると考えております。

来る年は伝統の継承とともに篆刻の新たな可能性を追求する一年にしたいと考えております。他分野との連携、デジタル時代における篆刻文化の発信など、今後の展開に向けて一歩ずつ着実に歩みを進めてまいりたいと思います。

温故知新という言葉があります。この温故の部分において、梅舒適先生二十代の印譜（碩鼠洞印存）が発見されました。ここに数方紹介しておきます。梅先生の御作から新しい知識や見解、道理を発見していくことはありませんか。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

二〇二六年（令和八年度上半期）月例課題一覧

月	課題	出典	意味
一月	獻壽	文選	人の長寿を祝う
二月	雪海流香	朱熹	海のような梅花は上品な香を漂わす
三月	樂琴書	晋書	琴を弾き書を楽しむとする
四月	大有爲	孟子	大事業をする 才があり大いに役立つ
五月	小心落筆	何震	布字の運筆は注意深くする
六月	大膽落刀	何震	刻すときの奏刀は大胆にする

【前号の訂正箇所について】

前号十八号で掲載しました十二月課題「乙巳」役員の部で「古瀬章石」先生と「山崎井泉」先生のお名前が入れ替わっていました。（印影下と氏名一覧部分の二箇所）と大変申し訳ありませんでした。この場を借りて訂正し、お詫び申し上げます。

日本篆刻家協会

〒五六三・〇〇三二
大阪府池田市石橋二丁目二十
牧野ビル二〇三号
TEL 〇七二・七六〇・三八五二
FAX 〇七二・七六〇・三八五三
E-mail: info@n-tenkoku.jp



▶ 日本篆刻家協会
ホームページ

▷ 『碩鼠洞印存』選

政胤之印／碩鼠洞主／政／政印／茄洲／蔑洲



● 月例課題出品方法について

- ① 印は一寸以内、用紙は協会指定の印箋を使用。（篆社印箋も可）
- ② 会員コード・資格・姓号を必ず記入。
※未記入の場合は審査対象外
- ③ 応募は毎月一人一点、べ切は毎月末必着。
※日本篆刻家協会「〇月月例課題」係まで
※課題用紙のみ郵送のこと（送付状不要）

2月課題「娯志」

役員
(山下方亭選)



燕安



龍泉



黎秀



華紅



尚石

○古野燕安 岡崎巖石
○三枝龍泉 下倉遼水
○武田黎秀 中井榮子
○福谷華紅 萬谷碧嵐
○渡邊尚石 中本管玉
○川崎白石 遠藤米子人
○名倉克彦 岡田桂舟
○寺田知了 計五二人

全体には流石役員のレベルは高いと感じました。選んだ印影は、古銅印の半通印や中国印人の興識や趣之謙がみられましたが、やはり締結する処は品格や風格が求められ奇を衒うことを個性とは言わず高い品格の裏打ちがあつての事だと思ひます。

常任委員
(吉田雅風選)



悦治



管玉



進



幸園



和彦

○兼子悦治 西岡貴美子
○中本管玉 松村信夫
○田邊進 荒井典恵
○中島幸園 真田玄松
○服部和彦 中出千恵美
○大崎深白 山杉博子
○山中徹人 田中紅珠
○田辺碧水 計二八人

朱文が多く全体の三分の二を占めていました。小篆構成作品に秀作が多数ありました。一見佳印ながら異なる時代の文字構成のものや、押印にムラがあるもの、印泥のつけ過ぎで刻線がふれてしまつていたり、ものなども残念でした。

委員
(松本雅至選)



松苑



尚園



紅玉



哲幸



真紀子

○川土居松苑 佐野真咲美
○新尚園 大塚秋露
○池田紅玉 森下正義
○吉田哲幸 寺地寿和
○吉田真紀子 浦田紫雲
○吉田草心 國本玄嶺
○大崎多清輝 小出武
○境山正甫 計三四人

正統な小篆または金文で刻されているものが多い作品があり、結体が乱れた印が気になります。刻すのと並行して日頃から正しい篆書を書くようにしていきましょう。アレンジしても篆書の結体が崩れにくくなります。

会員
(吉江翠光選)



兼洞



桂扇



美榮



尋亢



煌雪

○鶴見兼洞 稲葉碧鮮
○八木桂扇 伊藤光彦
○武藤美榮 村田昇治
○石山尋亢 遠藤幽堂
○中山翠雪 柴田聖風
○中西桑舟 秋吉隆夫
○広森勝竹 中村幸恵
○城本朴園 計二六人

小篆、印篆が多く見られた。古文に挑戦された作品もあり、古文の作品等もあり、色々探求の上出来た作品もあり、中には、もう少し時間をかけて制作出来たらいいのに、と思う作品もありました。全体的に見てたえる作品でした。

3月課題「實事求是」

役員
(尾崎蒼石選)



井泉



龍石



尚石



燕安



米子人

○山崎井泉 萬谷碧嵐
○山本龍石 下倉遼水
○渡邊尚石 高野弘深
○古野燕安 井畑喜雨
○遠藤米子人 大野勝山
○三枝龍泉 木村容庸
○片畑仁美 宮越素翠
○田原真山 計五五人

四文字の課題で、そう難しくなかったと思ひますが、山崎君、十字回線が生じた。古文の二文字目と四文字目が中心に向って安定した。渡邊君、四文字が生じた。古野君、一行目の斜線配置が生じた。米子人君、線に力あつた。高さが伺えました。

常任委員
(大村雪陵選)



極浦



紅珠



雪峰



寛明



乾石

○奥島極浦 山中徹人
○田中紅珠 松村信夫
○白幡雪峰 荒井典恵
○茂田寛明 服部和彦
○永木乾石 兼子悦治
○中出早美 田辺碧水
○中本管玉 林昭子
○藤田紅霞 計二八人

四文字共に比較的平均しており、難は少ないが、偏と旁の字が一字も無く変化の乏しい無味な作になり易いのが逆に難である。従って白文の漢印調の作が大半を占めたが、細部に気を配り、注意深く制作されている意識の高さが伺えました。

委員
(井後雅堂選)



哲幸



松苑



紅玉



忠洋



尚園

○吉田哲幸 高木啓志
○川土居松苑 本間輝衣
○池田紅玉 森田一色
○山下忠洋 伊神千博
○新尚園 國本玄嶺
○指輪桂舟 岩本凌慶
○山本智子 寺地寿和
○吉田草心 計三五人

偏も旁もない印文に苦心の跡が見られましたが、ここを変化をつけようとする意識が、変化を求め、バランスが崩れてしまつて、バランスも見受けられました。

会員
(北田成器選)



優子



雲徑



美香



幽篁



桂扇

○田窪優子 広森勝竹
○高野雲徑 林正樹
○小林美香 秋吉隆夫
○遠藤幽堂 中西桑舟
○八木桂扇 池崎弥生
○高島俊二 浜戸三徳
○田中千代子 城本朴園
○山本雅己 計二八人

印影を以て他者と競う場では校子と捺印にまず注意を払うべきだと思ひます。審査の場においてこの二点の理由で落選する作品が多いことからその重要度は明らかです。一方、それが篆刻の全てではないこともまた事実：要は適印適所です。

4月課題「游心」

役員
(真鍋井蛙選)



知了



勝山



謙之



葭舟



聡

○寺田知了 古野燕安
○大野勝山 三枝龍泉
○北畑謙之 萬谷碧風
○平中霞舟 立石見聲
○中野 聡 山崎井泉
○福谷華紅 岡崎戯石
○武田黎秀 古瀬草石
○渡邊尚石 計五九人

課題の「游心」共に金文が存在する為、金文の作が多く見られた。「心」字を金文にするとややシメトリ的な形になるので、故意にデフォルメした人があったが不自然である。日頃から篆書の学習が必要であろう。

常任委員
(熊本夕生選)



溪月



管玉



秋鹿



紅珠



悦治

○三宅溪月 藤田紅霞
○中本管玉 奥島樞浦
○井上秋鹿 木谷劉石
○田中紅珠 松村信夫
○兼子悦治 廣野蒼屋
○中島幸國 田邊 進
○永田乾石 山杉博子
○西岡貴美子 計三〇人

金文の作品が多かった。金文の美しく豊かな造形を理解出来るように、刻した。大抵でパワフルな作品が見えたかった。

委員
(後藤黄太郎選)



響山



哲幸



尚園



秋露



清琴

○田中響山 森下正義
○吉田哲幸 寺地寿和
○新 尚園 吉田草心
○大塚秋露 佐野真美
○大野清琴 岩本凌慶
○池内龍泉 國本玄嶺
○田中 滋 小出 武
○山本智子 計三四人

文字が大きく圧迫している。周囲の余白が少ないため窮屈な印象を受ける。筆画の少ない文字は大きくしてしまいがちだが、主張が強くならないように、作品とは文字と余白のバランスが良いデザインであることだと考えます。

会員
(出田塘鼓選)



幽室



桑舟



兼洞



正樹



煌雪

○遠藤幽室 五十里厚子
○中西桑舟 米澤春園
○鶴見兼洞 田中千代子
○丸山沙舟 山崎芳園
○林 正樹 田窪優子
○横山煌雪 八木桂扇
○浜戸三徳 広森勝竹
○高野雲徑 矢口裕子
○秋吉隆夫 計三四人

今回の課題「游心」は、甲骨文・金文・古璽など色々な書体が見られます。それゆえ、二字の組み合わせが、金文と印章など時代のかげ離れた文字が使われている例が見られました。まず書体をそろえることに留意してほしいと思います。

5月課題「一味眞」

役員
(喜多芳邑選)



白水



碧風



知了



沙舟



戯石

○川崎白水 平中霞舟
○萬谷碧風 木村容庸
○寺田知了 北畑謙之
○丸山沙舟 山崎芳園
○岡崎戯石 池田薫花
○大城南浄 小松五岳
○南陽陽苑 阿部祥庵
○宮越素翠 計六一人

今回は白文が少なく、大半が一行目に「一味」の二字を入れる構成になっていた。「二」の扱いに工夫を要し、字座を考え、余白が空ならぬ様にしたい。役員作となつて、レベルが高いが、著しく分間白を軽減した作があり残念であった。

常任委員
(関青飛選)



悦治



幸園



溪月



紅霞



徹人

○兼子悦治 山杉博子
○中島幸園 田中紅珠
○三宅溪月 服部和彦
○藤田紅霞 稲垣竹扇
○山中徹人 山崎游石
○白雲雪峰 松村信夫
○奥島樞浦 豊岐玲風
○木谷劉石 計三三人

見応えのある作品が多く、楽しい審査でした。この印文は、字画の少ない「二」の処理がテーマの印。文字バランスの借しい方が多く見えました。印稿を考え、見字を直ぐに刻すのではなく、数日机の上で置いて、俯瞰してみたい。

委員
(戸出九廬選)



智子



真紀子



啓志



紅玉



尚園

○山本智子 師資田綱江
○庄田真紀子 大塚秋露
○高木啓志 吉田草心
○池田紅玉 國本玄嶺
○新 尚園 吉田哲幸
○田窪優子 山崎游石
○田邊 進 山下登雲
○岩本凌慶 池内龍泉
○山下忠洋 計三七人

一行目に「一味」の二字とすると、作品「二」を画数の多い文字を採用し、一行目に一字とする作品、半通印で一行に仕上げた作品と様々でした。「二」の文字の置場に苦労された様に思われます。

会員
(下井瑤琴選)



幽室



弥生



兼洞



桑舟



優子

○遠藤幽室 広森勝竹
○池崎弥生 道下喜山
○鶴見兼洞 稲葉碧鮮
○中西桑舟 横山煌雪
○田窪優子 石山尋九
○武藤美榮 村田昇治
○柴田聖風 五里厚子
○秋吉隆夫 計三六人

私がいつもやっかいだと思つた「二」という字のポジションです。どうしても定位置になつてしまいがちですが、それでもその方がおつてみるように思います。妙に動かすとまとめることがない。まずはきちんとした印をおすすめします。

6月課題「鳥語花香」

役員

(黒田玉洲選)



容庸



燕安



皓碩



五岳



仁美

○木村容庸 川崎白水
○古野燕安 名倉克彦
○岡本皓碩 池田敷花
○小松五岳 細川東苑
○片畑仁美 大城南淨
○山吹緑 阿部祥庵
○寺田知了 浅野道男
○丸山沙舟 計五七人

役員の上位作品は刀法は勿論章法安定作が多く見えたが、鳥・華の斜線の扱いと書き合いに意識無い作品や繁画の鳥字の扱いに苦悶した作も目立つ。形のおもしろさから甲冑文や金文を用いた作もあるが他字との調和不足が多いのは残念。

常任委員

(中村葉舟選)



極浦



雪峰



幸園



溪月



信夫

○奥島極浦 喜岐玲風
○白幡雪峰 川榮玉峯
○中島幸園 八木壽石
○三宅溪月 西岡貴美子
○松村信夫 木谷劉石
○廣野幸庵 服部和彦
○永田乾石 山中徹人
○中本菅玉 計三人

「鳥語花香」この級の方では、何度が刻した四字字ではないかと思えます。見るからに誤字は、頂けない。心地良く目に映る作品は、縦横の目間が美しく無理がなく、重心が揃っている。写真版には心地良い作品を選びました。

委員

(長谷川帰海選)



紅玉



尚園



凌慶



忠洋



智子

○池田紅玉 大夢多清琴
○新尚園 吉田草心
○岩本凌慶 木村行石
○山下忠洋 森田哲幸
○山本智子 吉田哲幸
○佐野賢美 庄田純子
○池内龍泉 森下正義
○浦田紫雲 計三人

なぜか右行が中抜い作が多かった。意図的に作成する以外に刻する前に見直して欲しい。香字、甲冑文には口も有るが印家の時は誤字になるのが印象的。最近の印材は粗悪なので仕方無いが彫削して作るもあった。

会員

(中林千影選)



兼洞



正樹



雪華



久視



三徳

○鶴見兼洞 田中千代子
○林正樹 町田緑
○渡部雪華 中西桑舟
○光武久視 米澤春園
○浜口三徳 五十里子
○伊藤久樹 伊藤光雄
○山本雅己 山本雅己
○武藤美栄 計五人

誤字の多い事が気になり、見かけない字を見つけたと思つて安易に使わず、複数の字書を用いて、慎重に検討されることをお勧めします。

7月課題「久敬」

役員

(小 朴園選)



勝山



仁美



黎秀



弘深



華紅

○大野勝山 小松五岳
○片畑仁美 北畑謙之
○武田黎秀 山吹緑
○高野弘深 立石見聲
○福谷華紅 五里子
○木村容庸 浅見朱華
○中本菅城 寺田知了
○阿部祥庵 計五九人

久敬二字の課題で、一見簡単に見えて実は相当に難しい印文ではあった。疎密は当然のこととして久字をどう配するか。そこで見応えのある印が刻せたかどうかを分けたのは、古印や先人の作を多く観て、それらの味を吸収しているか否かによる。

常任委員

(松本雅至選)



悦治



秋鹿



博子



壽石



紅霞

○兼子悦治 松村信夫
○井上秋鹿 木谷劉石
○山杉博子 喜岐玲風
○八木壽石 服部和彦
○藤田紅霞 純純雅
○三宅深月 山中徹人
○奥島極浦 中本菅玉
○田邊進 計二九人

疎画と繁画で作品にしやすい印文のため、比較的好い作品が多かったように思えます。特に「敬」字には多くの家体がありますが、珍しい篆書で変化を狙う。方角、今後の制作にきつと役立つと思います。

委員

(東尾高岳選)



蘇晨



紅玉



響山



啓志



草心

○川野蘇晨 亀田紫光
○池田紅玉 大塚秋露
○田中響山 藤田勉
○高木啓志 大夢多清琴
○吉田草心 新尚園
○庄田純子 山下忠洋
○森田一色 伊藤博則
○森下正義 計三十七人

二字印文ということで布字に苦心した作品はありますが、縦長方形の、印首印に作ったものが佳作が多くありました。が、秦印に横長方形というものもありますので挑戦してみてください。

会員

(長谷川拓石選)



聖代



桑舟



雲徑



兼洞



優子

○川端聖代 林正樹
○中西桑舟 広森勝竹
○高野雲徑 山本雅己
○鶴見兼洞 岡本五月
○田邊優子 岡本五月
○高島俊二 町田緑
○伊藤博則 城本朴園
○米澤春園 計三十九人

作品は人に見せる物です。毎回同じ作品が、悪影響、誤字となる作品等があります。刻る前に、次の事に注意し正しく布字をする。初歩的な話ですが、まず印面を整えてから、誤字とされ無意味な欠画、偏旁、鏡文字になつていないか等、刻る前に辞典で再確認する事等です。